

## 目次

機器構成 .....	2
SiteVision 組み立て .....	3
起動からモデル表示まで .....	5
モデル配置の修正 .....	10
疑似逆打ち .....	15
端点測定 .....	18
2 点間測定 .....	21
多点測定 .....	22
簡易体積 .....	23
切盛差 .....	25
PDF 配置 .....	27
アンテナ高さ変更 .....	32

## 機器構成



### 内容物

- ①GNSS アンテナ (Trimble)
- ②25 c mポール
- ③バッテリー
- ④ゴムバンド
- ⑤ポールブラケット
- ⑥バッテリー充電ケーブル
- ⑦二脚
- ⑧iPad

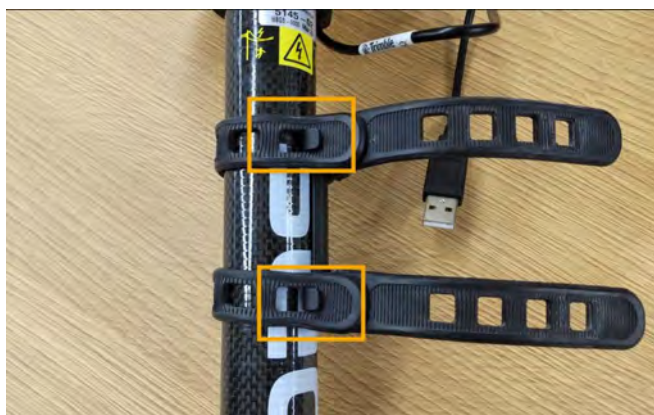
## SiteVision 組み立て

① 25 cm ポールに GNSS アンテナを取り付けます



② 25 cm ポールにゴムバンドを取り付けます

※ ギュムバンドをポールに一周させ裏側のフックに引っ掛けます



③ ギュムバンドにバッテリーを取り付けます

※ ギュムバンドをバッテリーに一周させフックに引っ掛けます



④ 組み立てたものを伸縮ポールに取り付けます

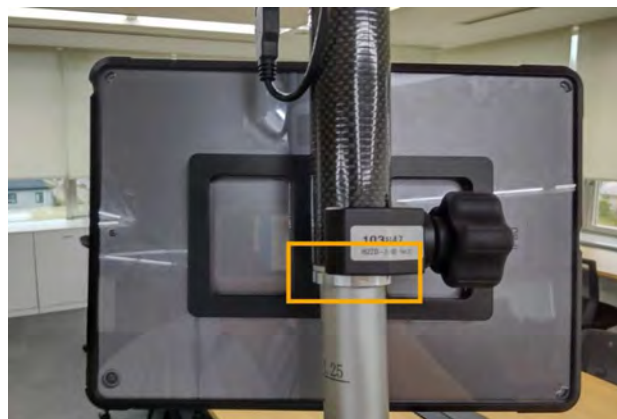


⑤ iPad の裏側にポールブラケットを取り付けます

※ ポールブラケットに取り付け向きはありませんが、ポールに取り付ける時はレンタルシールが上向きになるように取り付けてください



⑥ ポールブラケットは 25 cm ポールの下端に合わせて固定します (アプリでカメラオフセット値の設定をしているため)



⑦また取り付けの際に iPad のカメラが iPad の下側になっていることを確認します（STEP10 のシールが上向きになっていれば OK）

これもアプリでカメラオフセット値の設定をしているため、取り付けが反対になっていたらモデル表示がズれてしまいます



⑧伸縮ポールを **1.6m** に伸ばして使用します

※1.6m以外で使用する場合はアプリのアンテナ高設定を変更してください



⑨組み立て完了です



## 起動からモデル表示まで

- ① iPad が WIFI に接続されていることを確認します



- ② SiteVision を起動します

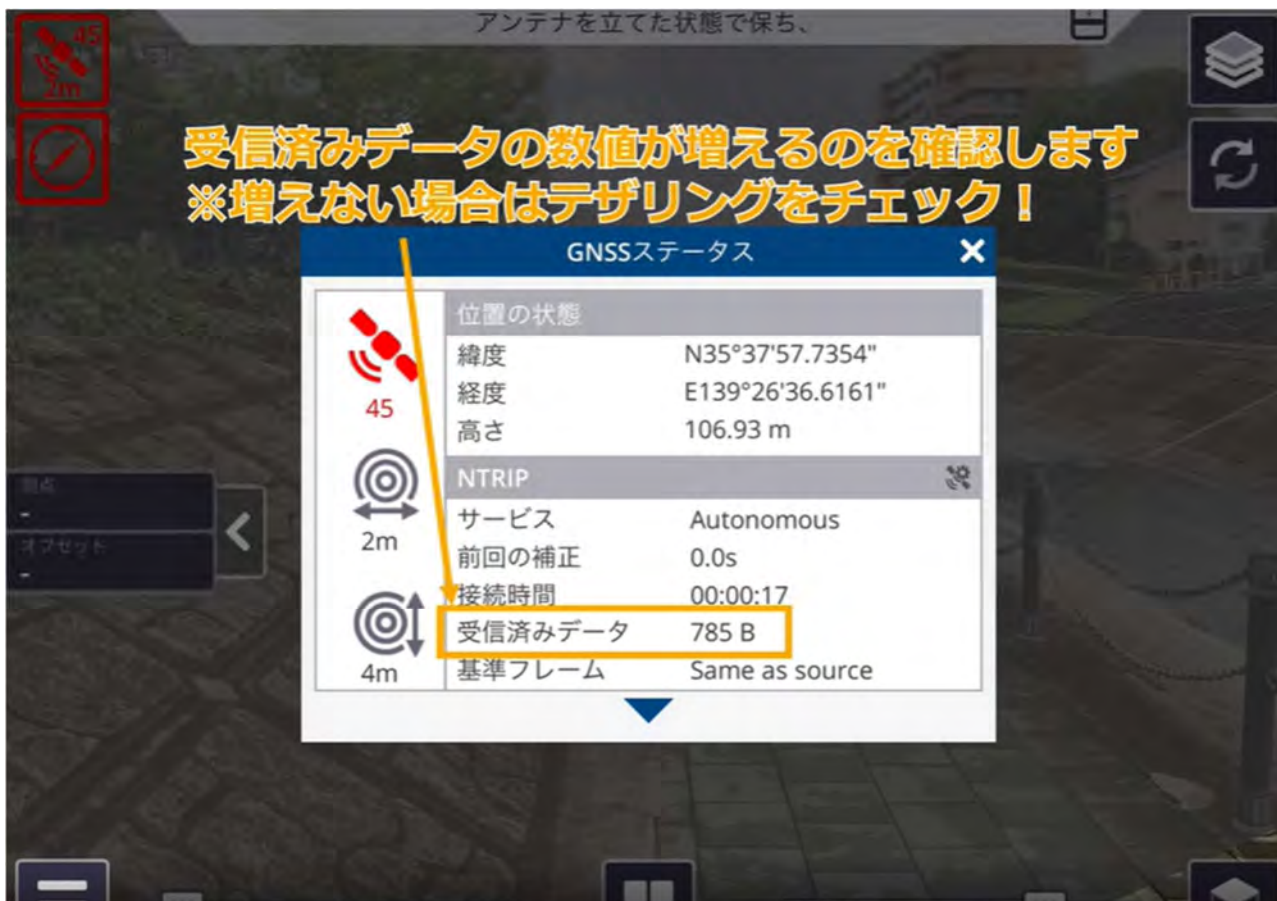


- ③ 左上のアイコンを押して GNSS ステータス画面を開きます

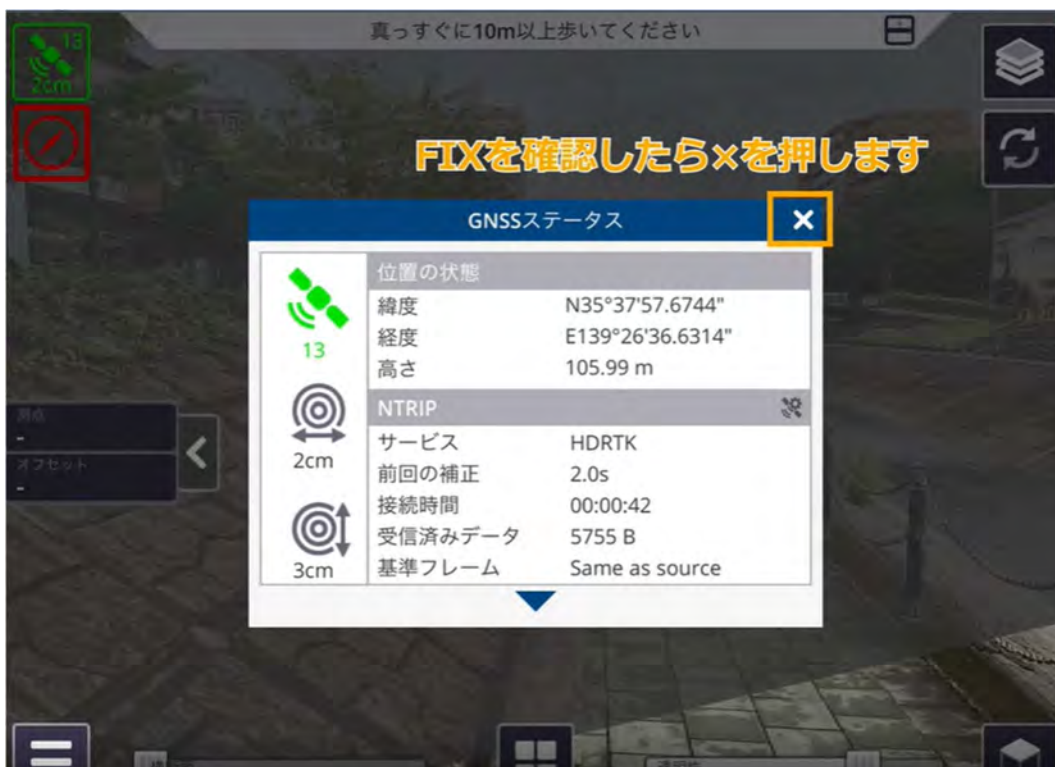


- ④ 受信済みデータが増加することを確認します

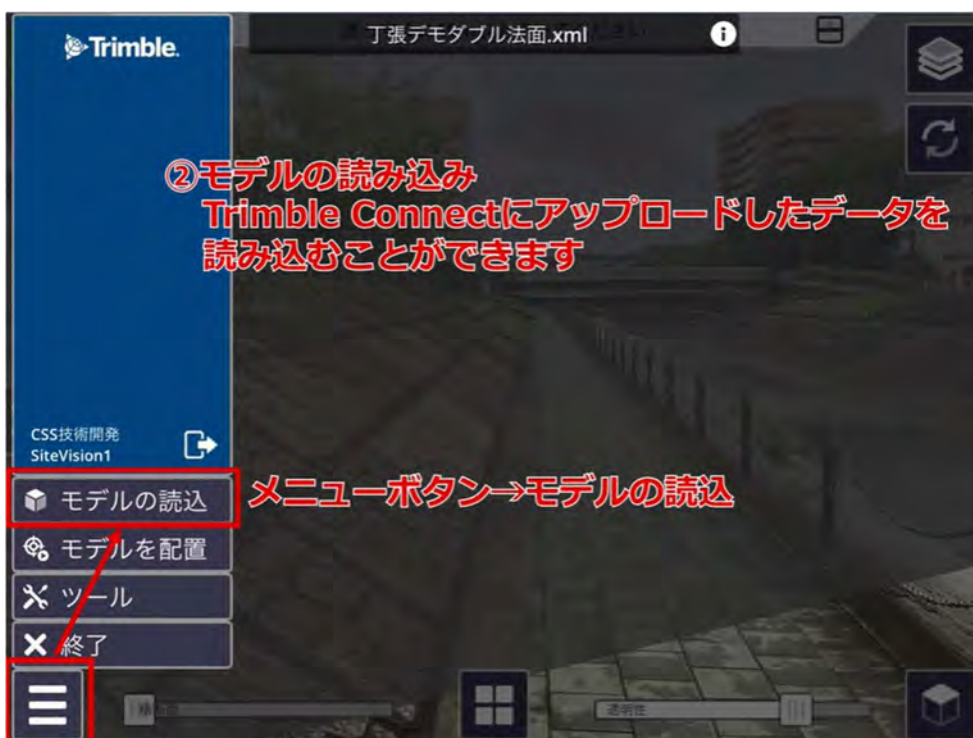
増えない場合はインターネット接続ができていないため、Wi-Fi の接続状態を再度確認してください



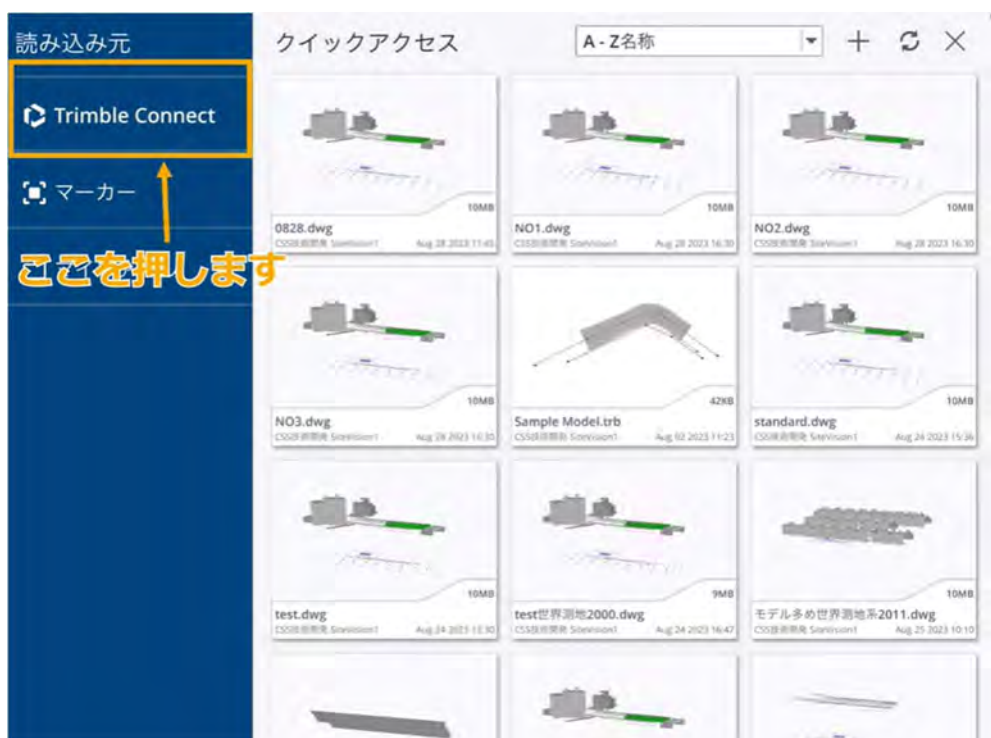
- ⑤ アイコンが緑になると FIX 状態となります  
×を押してウィンドウを閉じてください



- ⑥ 左下のメニューボタンを押します  
メニューからモデルの読込を選択して押します  
モデルの読込で Trimble Connect にアップロードしたデータを読み込むことができます



- ⑦ 左上の Trimble Connect を押します

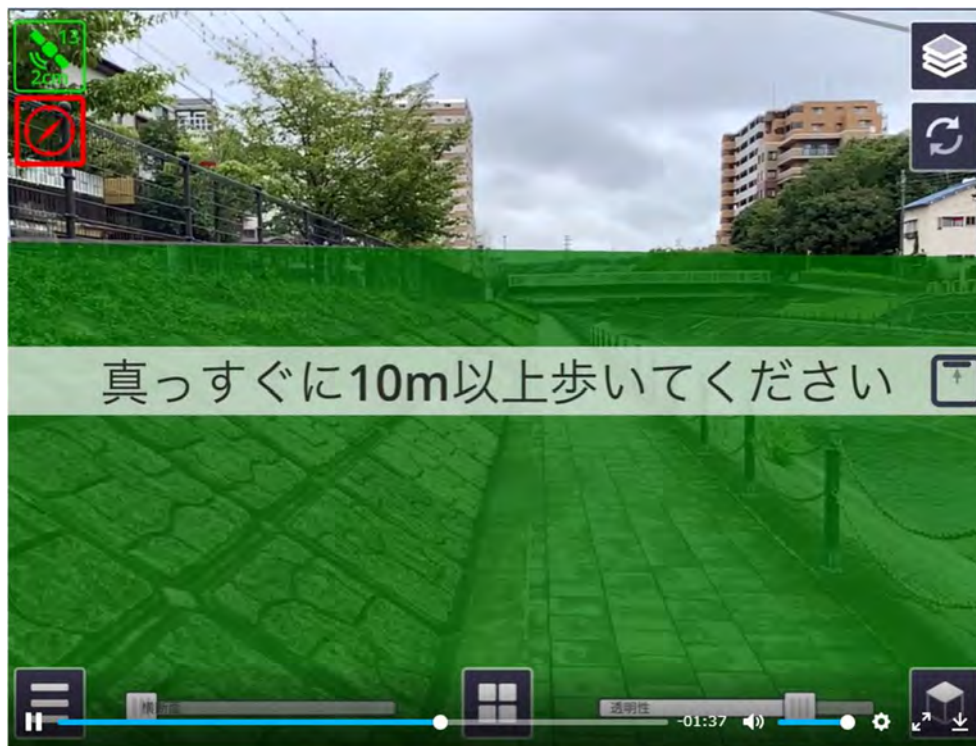


- ⑧ 読み込むモデルを選択し、右下の緑色のボタンを押します

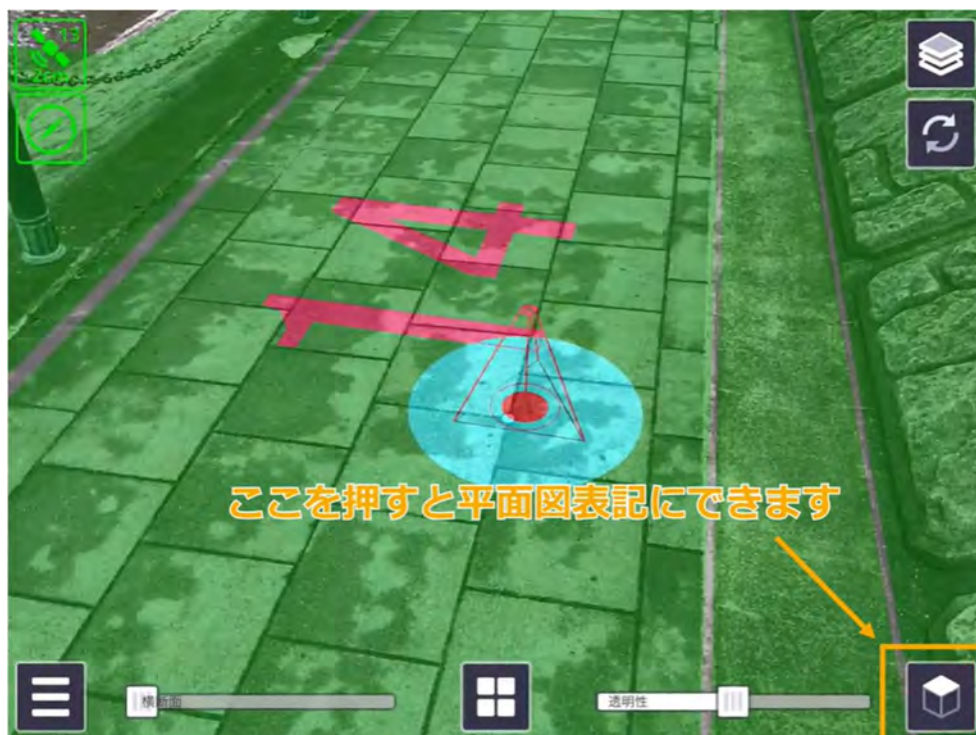




- ⑨ 指示の通り、真っすぐに 10m 以上歩いてください  
10m 以上歩くことでモデルの方向合わせができます



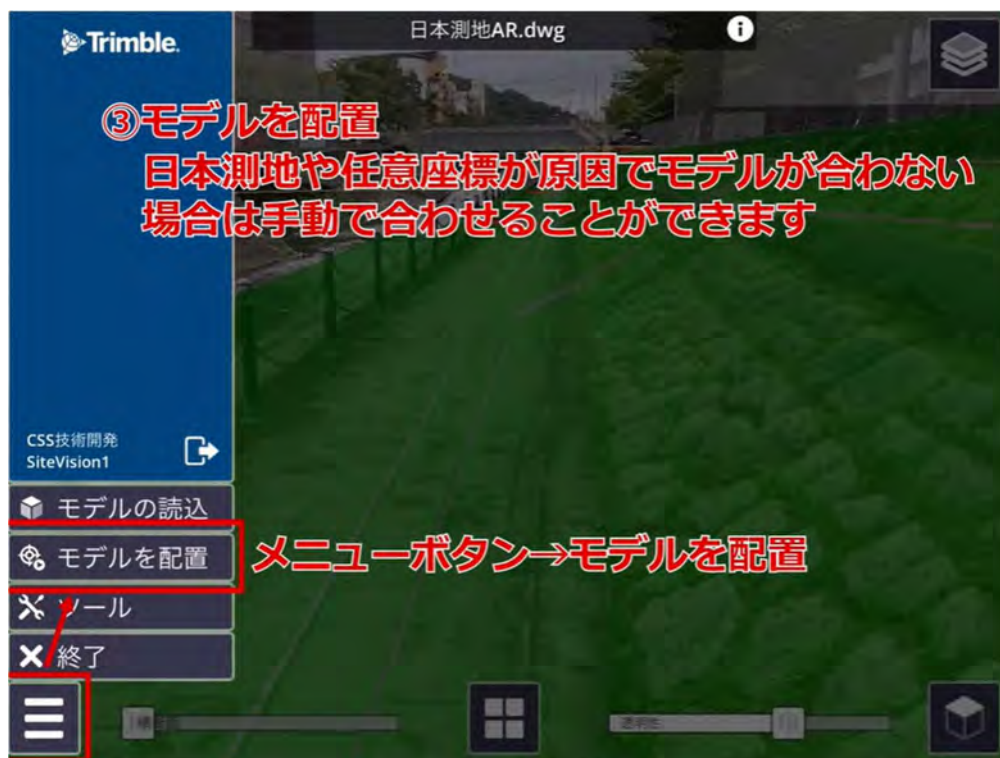
- ⑩ 画面下の透過性バーをスライドすることでモデルの透過性を調整できます  
画面右下のボタンを押すことで平面図表示に変更できます  
(もう一度押すことで元の表示に戻ります)



## モデル配置の修正

日本測地系や任意座標が原因でモデルが現地と合わない場合、手動でモデルを配置することができます

- ① 左下のメニューボタンを押します  
メニューからモデルを配置を押します



- ② 測定するを押します



- ③ ポール高を確認し、開始を押します



- ④ モデルを操作して、モデル内の既知点ポイント 1 点目にターゲットを合わせ選択を押します



- ⑤ ④で選択した既知点に実際にポールを立てて、気泡を合わせた状態で測定するを押します



- ⑥ ④と同様に 2 点目の既知点ポイントを合わせて選択を押します



- ⑦ ⑤と同様に 2 点目の既知点を測定します



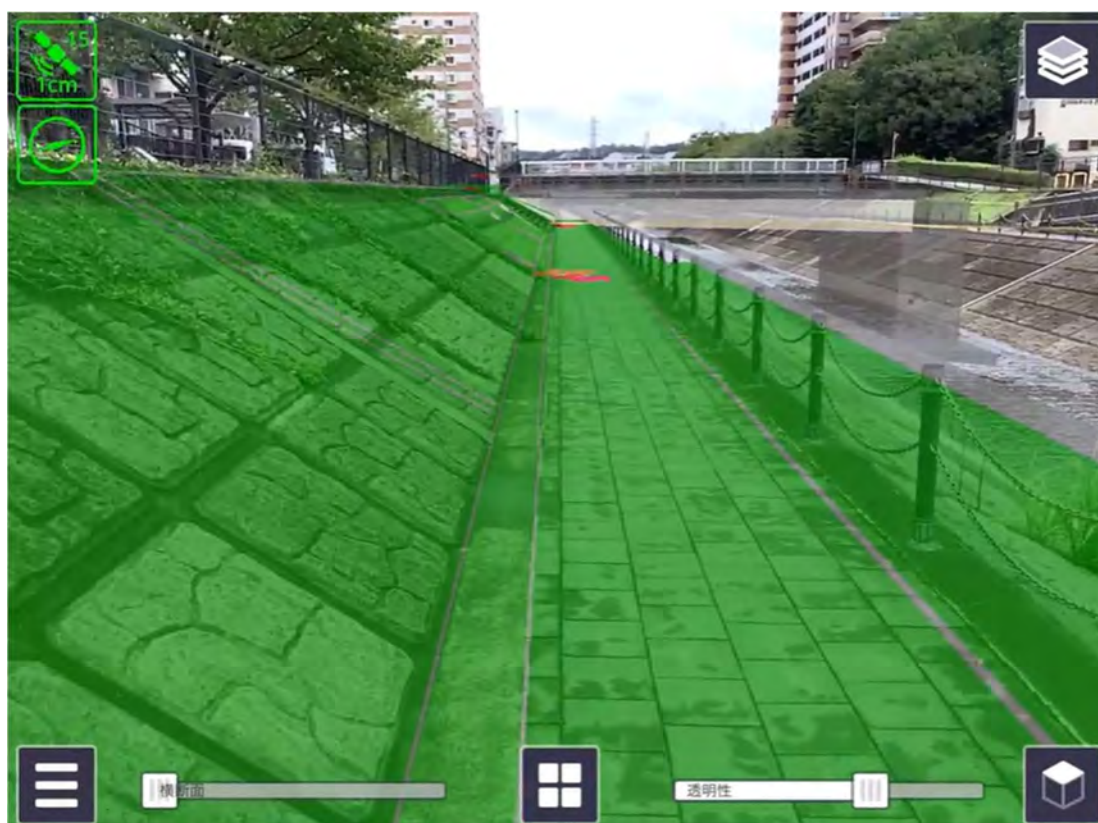
- ⑧ 適用を押します



- ⑨ 案内に従って真っすぐに10m以上歩いてください



- ⑩ 完了です



## 疑似逆打ち

- ① 右下のボタンを押して平面図表示に変更します



- ② 位置を出したいポイントに近づき、なるべく画面を拡大します



- ③ 画面真ん中のモードボタンを押します  
単点測定ボタンを押します

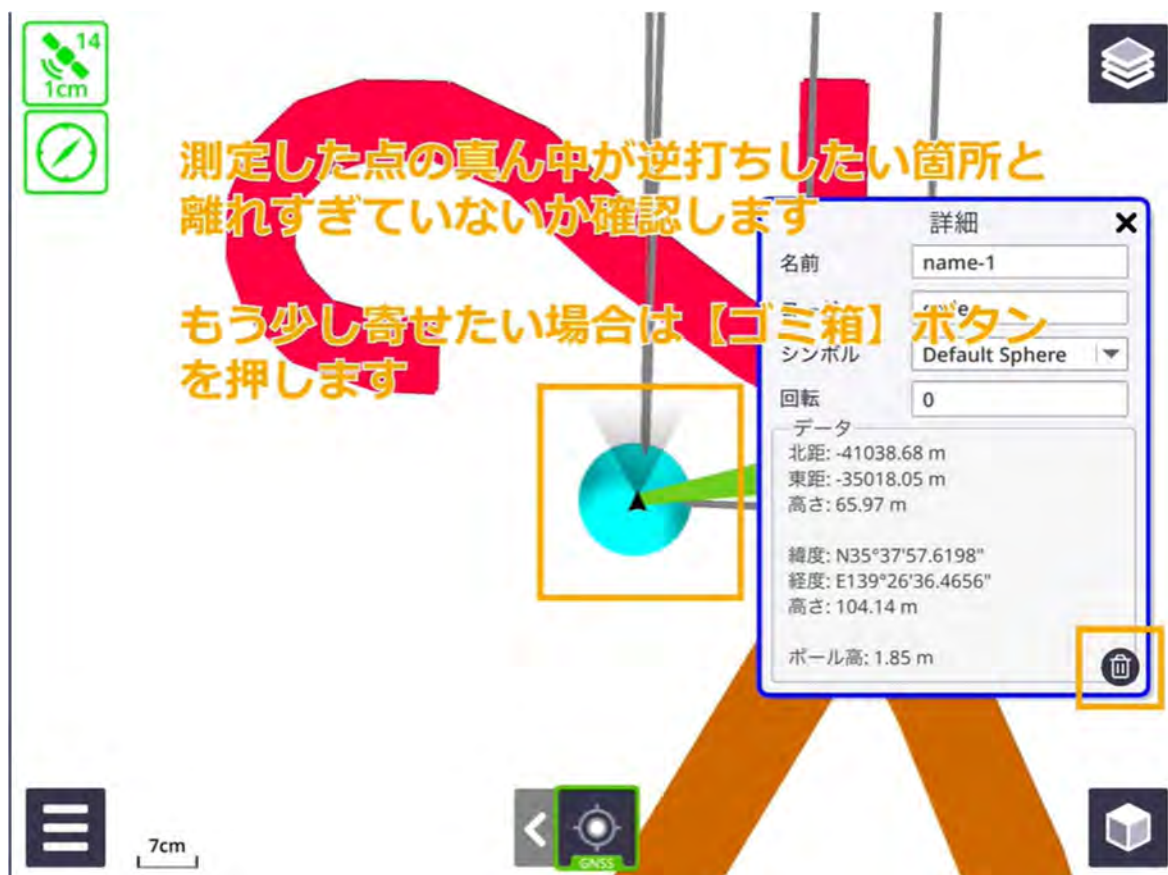


- ④ ポールを真っすぐ立てて、画面真ん中のボタンを押すことで自己位置を測定します





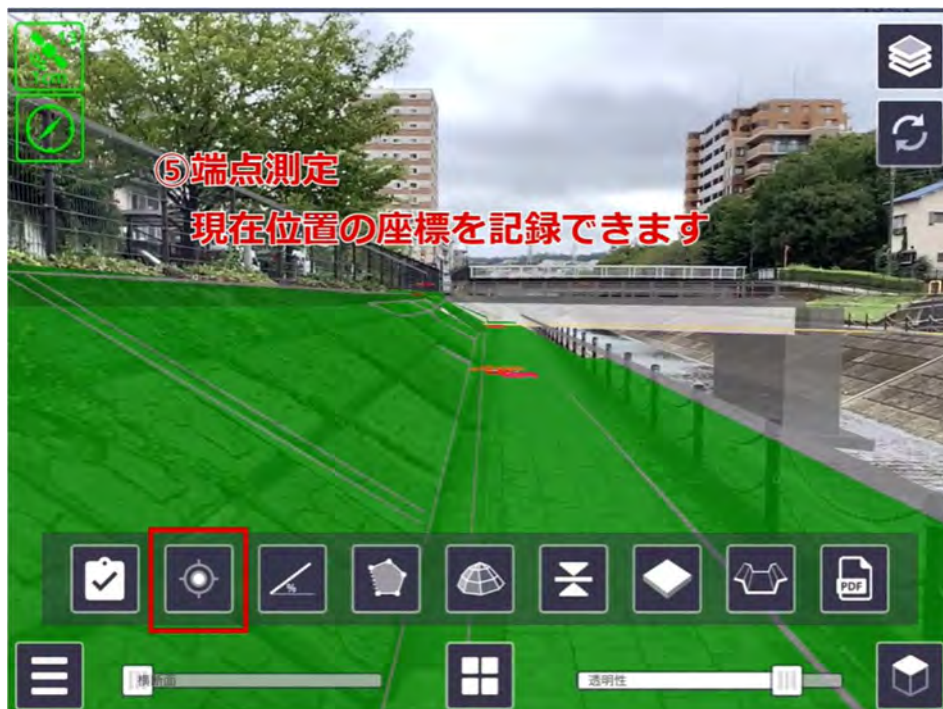
⑤ 測定結果が表示されます



## 単点測定

現在位置の座標を記録できます

- ① 画面真ん中のメニューボタンを押します  
左から 2 番目のアイコンを押します



- ② ポールを真っすぐ立てて、真ん中のボタンを押すと記録できます



- ③ 測定ボタン横の矢印を押すと測定で使用するツールを選択できます



- ④ カメラを選択すると画面真ん中にターゲットアイコンが表示されます  
計測を行うとこのターゲット位置の座標をカメラ情報から観測できます  
(GNSSモードと比べると精度が劣りますのでご注意ください)



- ⑤ モデルモードに切り替えると表示されるモデル位置の座標を記録できます

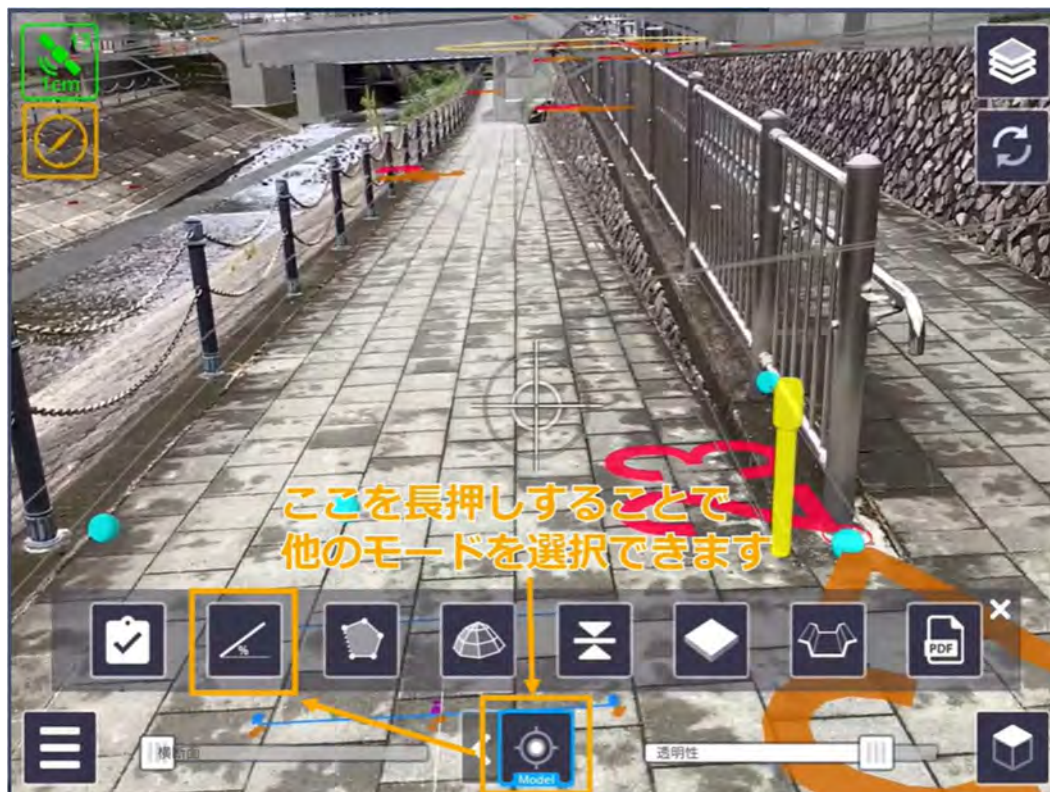


## 2 点間測定

測定した 2 点間の距離や勾配が表示されます

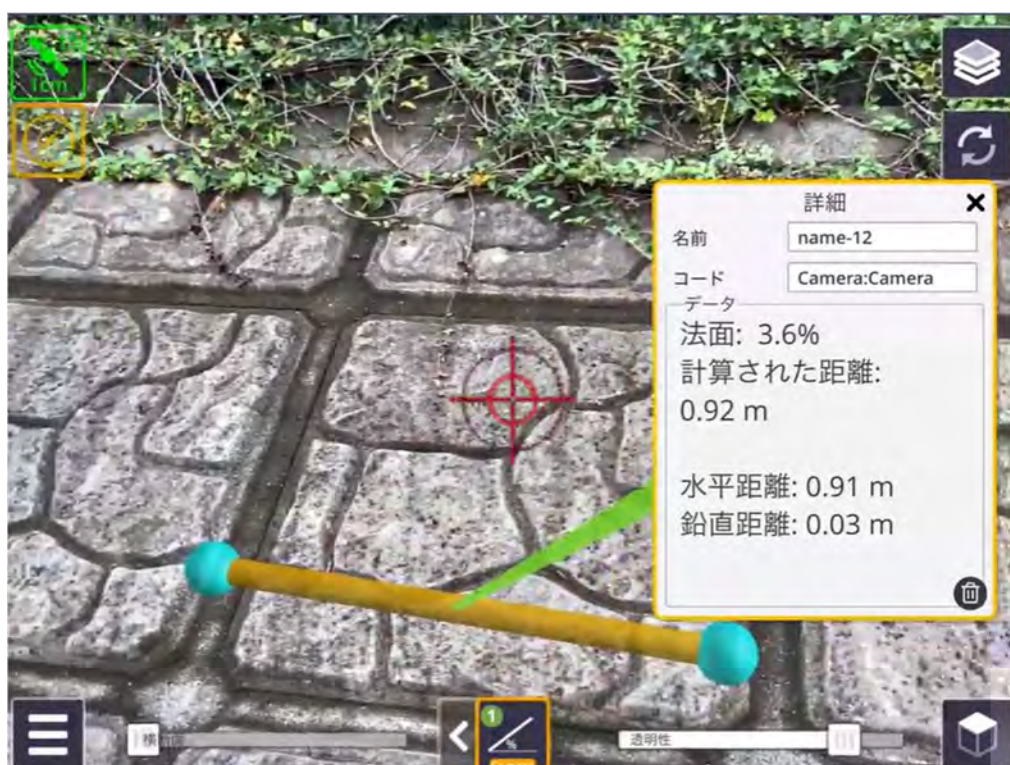
- ① 真ん中のボタンを長押しします

左から 2 番目のアイコンを押すと 2 点間測定のモードに切り替わります



- ② GNSS/カメラ/モデルのモードを切り替えて、端点観測と同様に観測を行います

2 点観測すると、2 点間の距離と勾配が表示されます

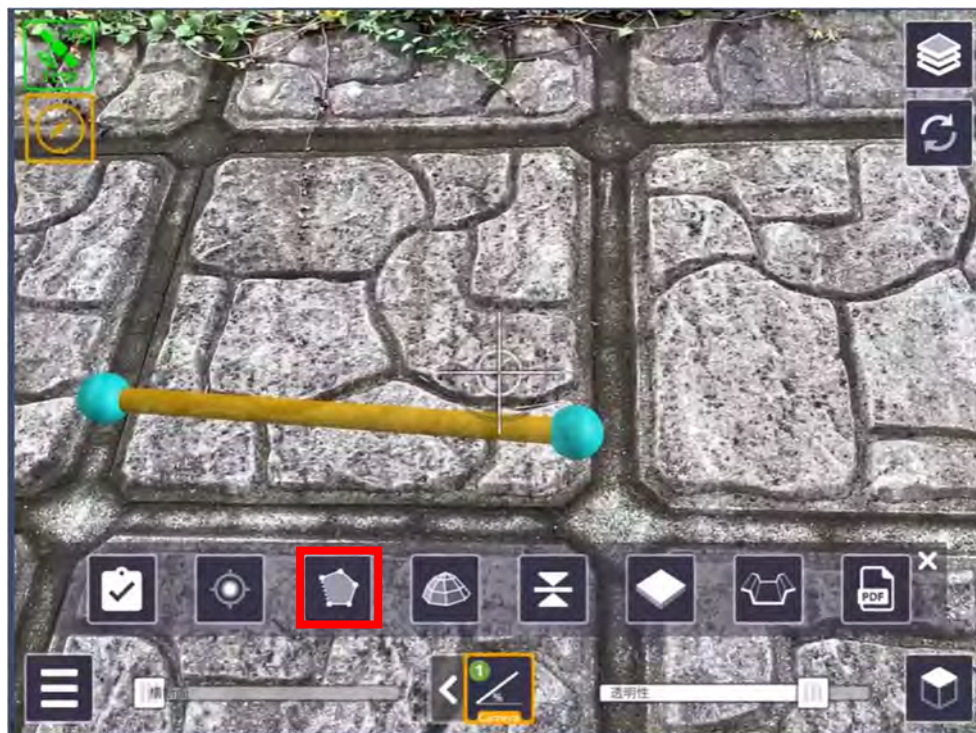


## 多点測定

測定した箇所の外周距離と表面積の算出ができます

- ① 真ん中のボタンを長押しします

左から 3 番目のアイコンを押すと多点測定モードに切り替わります



- ② GNSS/カメラ/モデルのモードを切り替えて、端点観測と同様に観測を行います  
測定出来たら真ん中のチェックボタンを押します



## 簡易体積

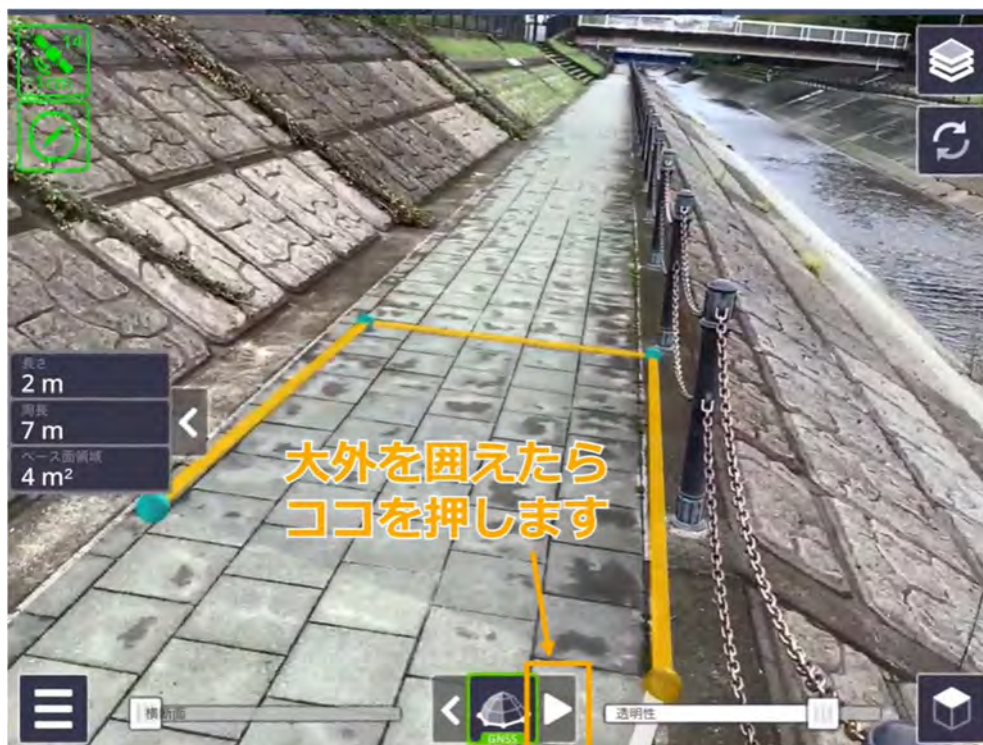
囲まれた範囲の体積を測定します

- ① 真ん中のボタンを長押しします

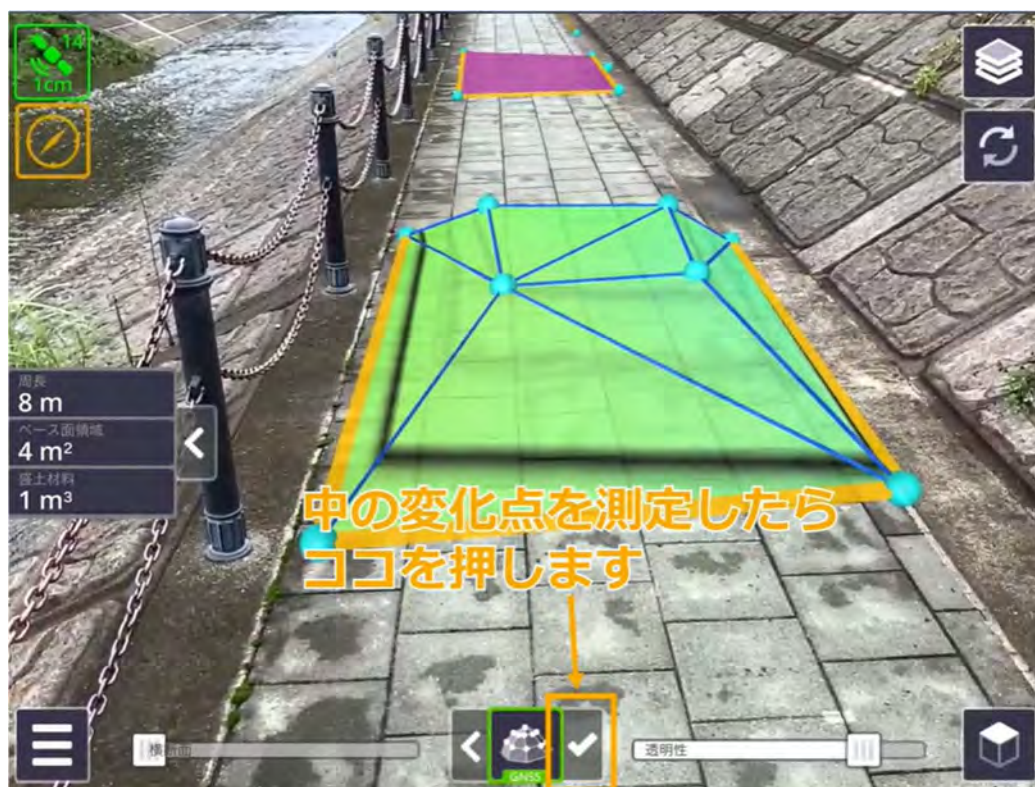
左から 4 番目のアイコンを押すと簡易体積のモードに切り替わります



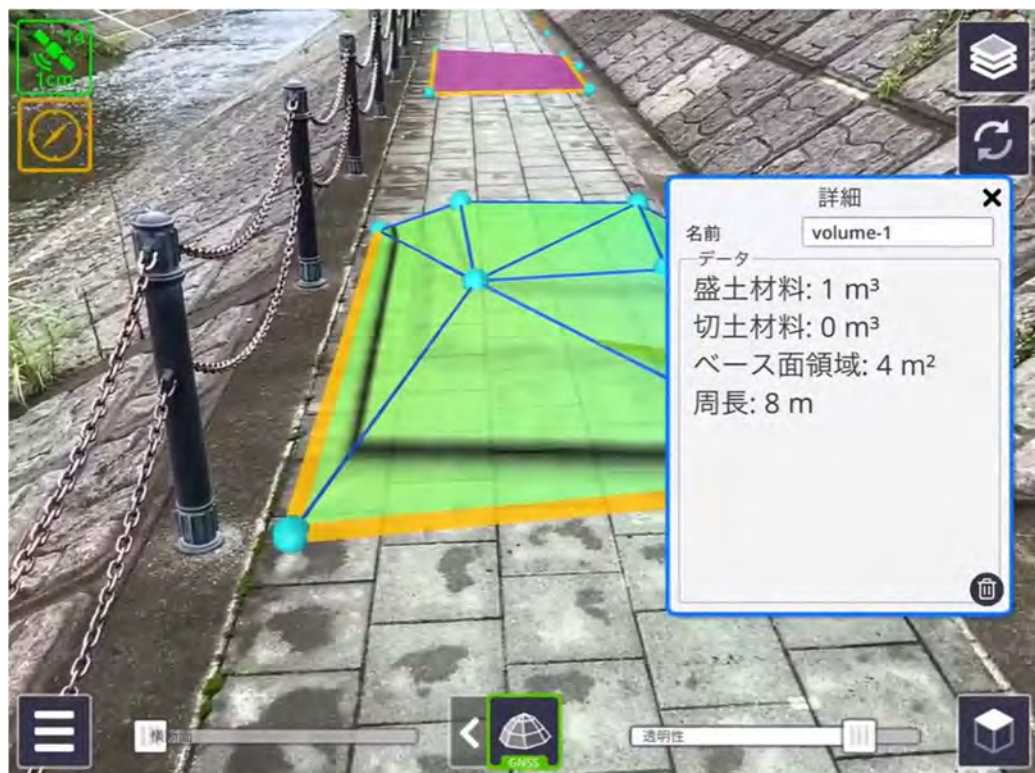
- ② GNSS/カメラ/モデルのモードを切り替えて、端点観測と同様に観測を行います  
大枠を囲えたら真ん中の右矢印ボタンを押します



- ③ 次に範囲の中の変化点を測定します  
測定出来たら真ん中のチェックボタンを押します



- ④ 体積が表示されます





## 切盛差

地表面と設計データとの高低差を表示します

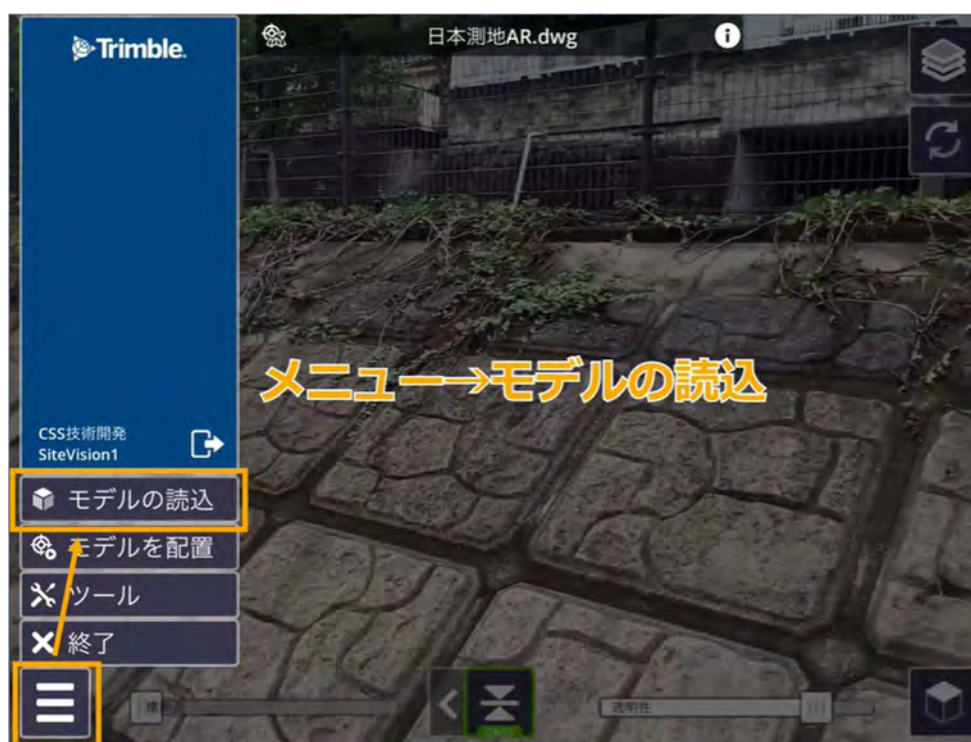
- ① 真ん中のボタンを長押しします

左から 5 番目のアイコンを押すと切盛差のモードに切り替わります

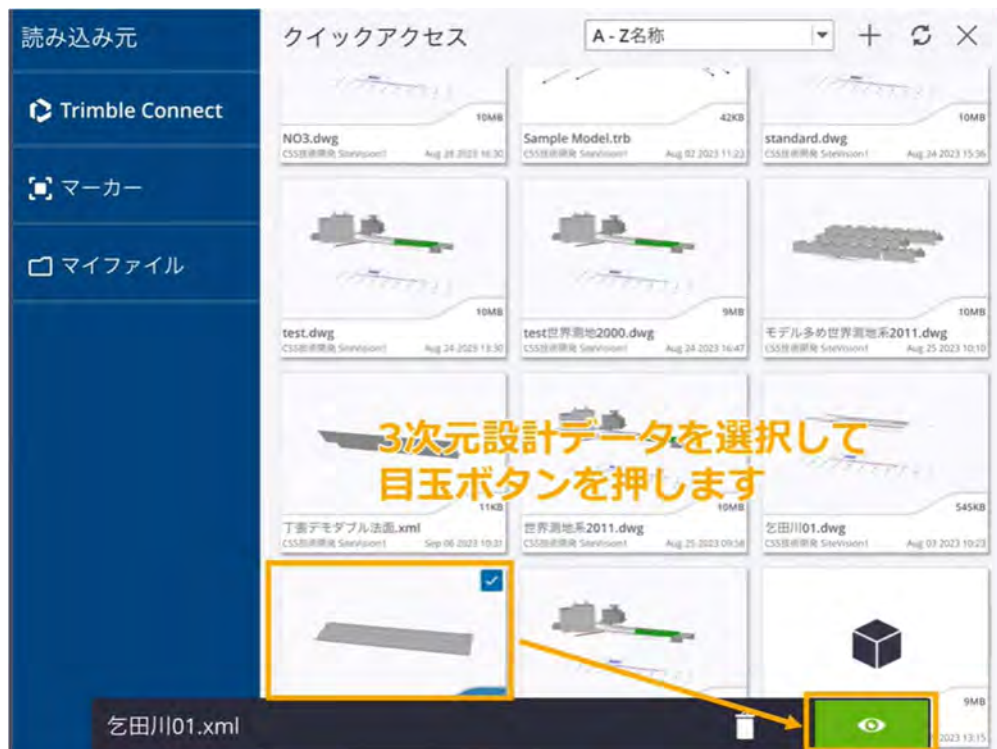


- ② 左下のメニューボタンを押します

モデルの読込を押します



- ③ 3次元設計データを選択して右下の緑色のボタンを押します



- ④ GNSS/カメラ/モデルのモードを切り替えて、端点観測と同様に観測を行います  
設計データ内で測定することで高さの差が表示されます



## PDF 配置

平面図等の PDF を 2 点合わせて配置できます

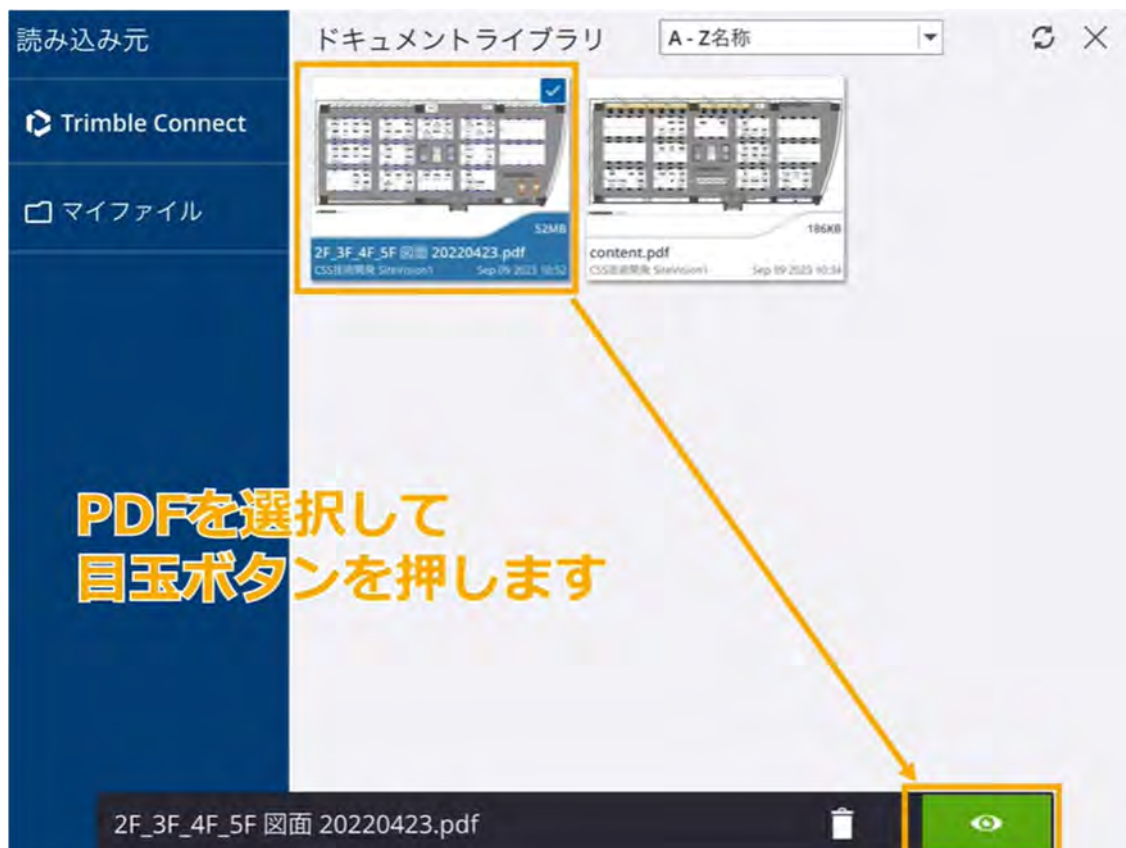
- ① 真ん中のボタンを長押しします  
一番右のアイコンを押すと PDF 配置のモードに切り替わります



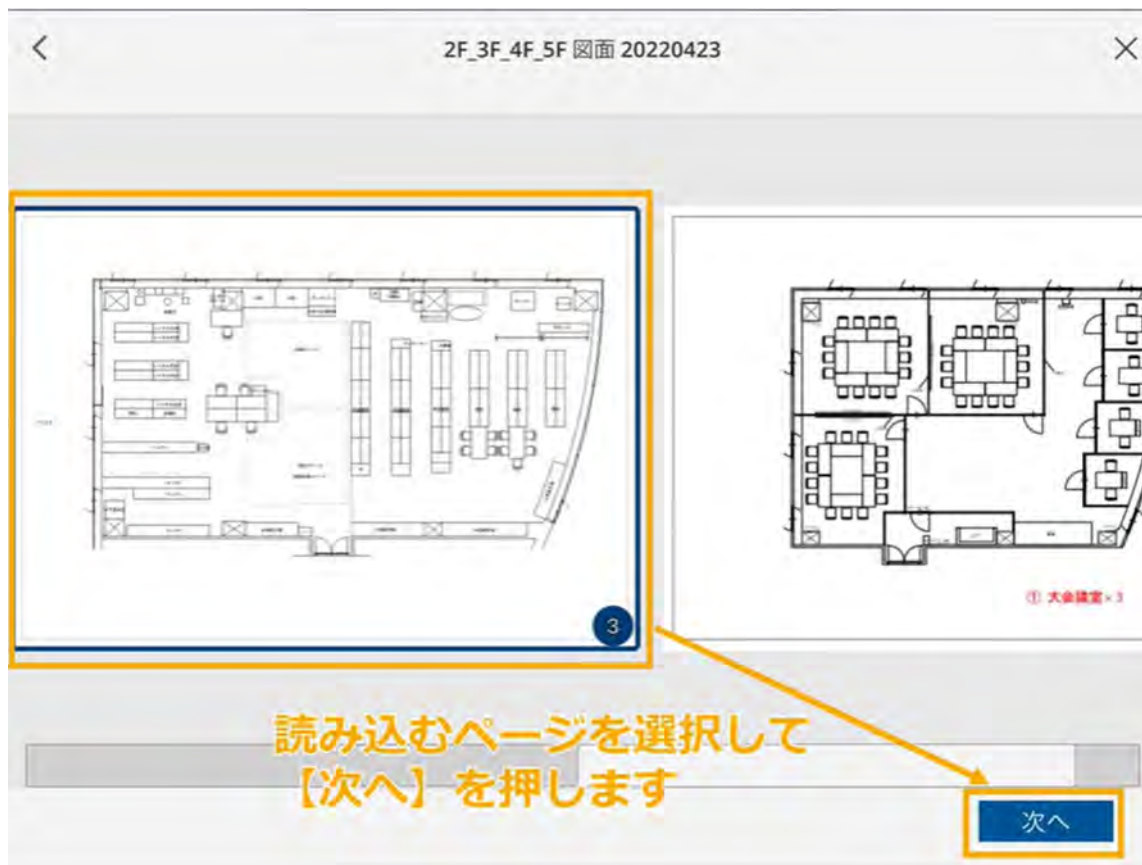
- ② 真ん中の PDF ボタンを押します



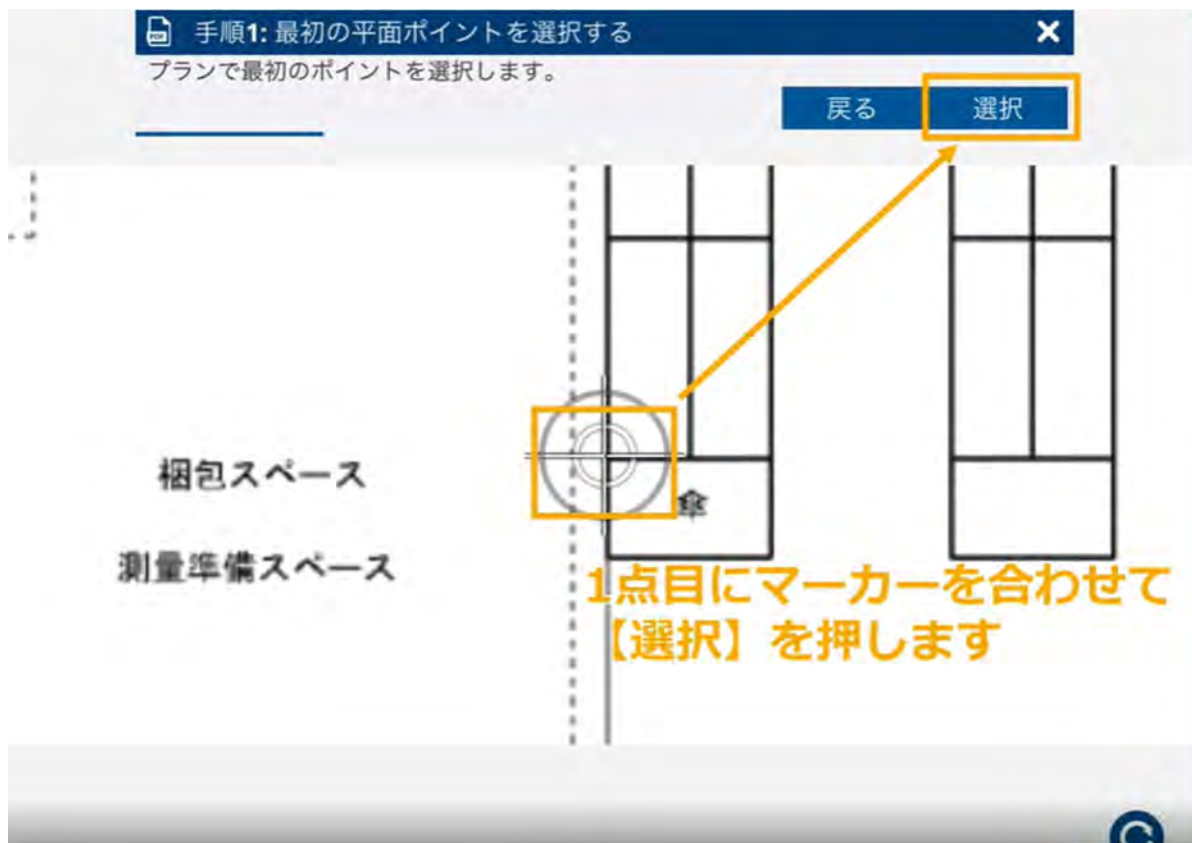
- ③ 3次元設計データを選択して右下の緑色のボタンを押します



- ④ 読み込むページを選択して次へを押します



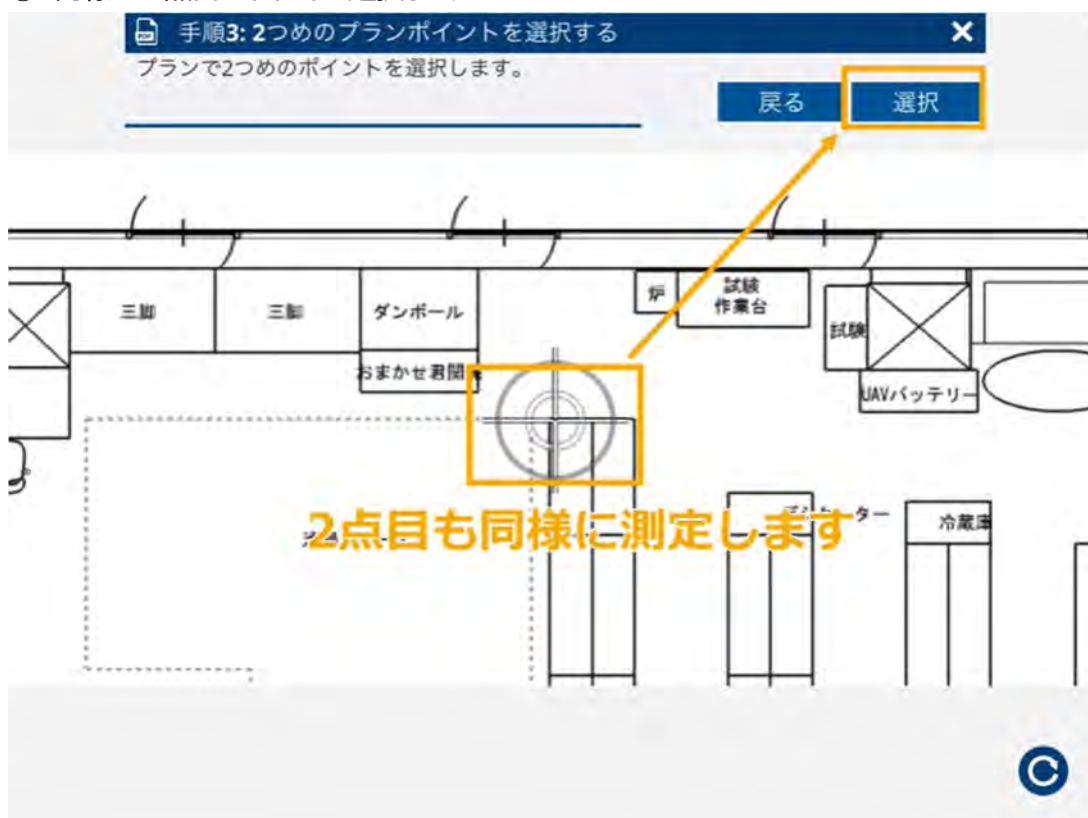
- ⑤ 現地との位置合わせに使用する 1 点目のポイントを選択します



- ⑥ ⑤で選択した箇所を測定します



- ⑦ ⑤と同様に2点目のポイントを選択します



- ⑧ ⑥と同様に⑦で選択したポイントを測定します



⑨ PDF を位置合わせできました



## アンテナ高さ変更

- ① 左下のメニューボタンを押します  
ツール→設定と押します



- ② 通常は伸縮ポール 1.6m+25 c mポール= 1.85 に設定しています。伸縮ポールの長さを変更する場合は【ポール高】の数値を変更してください。

例：伸縮ポール 1.4m+25 c mポール= 1.65 を入力

